

# 「ゴパン」こころに残る商品

～輝くOBⅢ～ File. 15



三洋電機コンシューマエレクトロニクス(株)  
家電事業部 企画統括部  
家電商品企画部  
リビング企画二課

岡本  
正範  
Okamoto, Masanori

鳥取県生まれ。1996年教育学部情報教育学科卒業。1996年三洋電機(株)入社。2001年より調理機器の商品企画を担当。

## 予想以上の反響

発表するとすぐに予約殺到。未だに品薄状態といういまの状況には驚いています。きっとヒットすると信じていたのですが、ご家庭のお米で作れる商品、というセールスポイントへのニーズは非常に強く、お客さまに新鮮な驚きを持っていただけたことや、内食ブームも追い風になったと思います。ゴパンは小麦を使わなくてもパンを作れる機能もあるので、小麦アレルギーの方でも安心してパンが食べられるのも特徴です。米の消費量が上がり、食料自給率の改善にも貢献できたらいいですね。

## 産みの苦しみ

企画は2003年から始めました。米粒を粉碎して米粉にするところがポイントだったんですが、業務用の米粉製造用ミルはとてつもなく大きいんです。これを家庭用としてコンパクトにするには大変難しいものがありました。最大限強力なミルを使ってうまく砕けず、コスト的な問題を始め難問だらけで完全に煮詰まっていたところで、炊飯器開発部門の下澤さん(当時)が「米を水に浸して軟らかくなったものをペースト状に砕いては?」とアドバイスをくださったんです。これがプロジェクトを推進させるきっかけとなりました。

## 新鮮な驚きを

SANYOとしては、PANASONICとの合併が予定されており、ゴパンが最後のSANYOブランドになるのではないかと、という気持ちもありましたので、開発に携わった関係者みんなの思いが形となって良い製品を生み出したのではないかと、思っています。

当社にはアイデアに優れた商品を開発する伝統がありますので、今後もお客様をオツと言わせる、新鮮な驚きを提供できるような調理機器を開発していきたいです。

そして、海外でも当社の製品を利用していただけると嬉しそうですね。

クラブやアルバイトに忙しい日々だと思いますが、学生生活の幹として勉強にも打ち込めるといいですね。



2010年12月15日取材  
三洋電機コンシューマエレクトロニクス(株)にて  
(大阪府大東市)

# 地域ぐるみで地域想いのビジネスを広げたい

～輝くOBⅢ～ File. 14



株式会社地域資源バンクNIU  
代表取締役

西井  
勢津子  
Nishii, Setsuko

三重県生まれ。1997年人文学部社会化学科卒業。1997年カメラマ株式会社入社。2004年退職。2006年NPO法人起業支援ネット入職。2010年株式会社地域資源バンクNIU設立。

## 夢、破れ...

小さい頃から海外に関心があり、大学では開発経済学を学びました。「フェアトレード」という言葉が一般的でなかった当時、開発途上国の役に立つ仕事がしたいと就職活動を開始しましたが、見事不採用。地元の企業に就職。名古屋に4年、東京に3年営業先で可愛がっていただき、会社で評価していただくことが私の「働き甲斐」となり、仕事と生活は充実していました。

## 途上国と未来に自分の幸せを重ねる

ところが一冊の本に書かれていた2つの言葉「エコロジカル・フットプリント」\*と「準備社会」が私に衝撃を与えました。世界中の人々が日本人のような暮らしをはじめたら、地球が約3個必要…。私は、役に立ちたいと願っていた途上国のモノや未来の資源を消費しながら、自分の明日の為に準備ばかりしている。「このままでは幸せになれない!」と思い、結婚を機に退社しました。

## 出会い・おこす・つながる

価値観がガラッと変わり、物欲が減った暮らしは、意外と心地よく、取り囲む顔ぶれや活動の場も変化してきました。名古屋の「NPO法人起業支援ネット」との出会いもこの時期です。起業支援(理念形成・仲間やコミュニティ作り・事業計画作成をサポート)する中で、農山村に可能性を感じ、昨年6月多気町丹生で起業しました。地域の皆さんと一緒にやりたいことは沢山あります。U/Iターンの応援や地域資源を活かした仕事も一緒に創っていきたいです。地域想いのビジネスに携わる人々はとても魅力的で、応援できることが幸せです。興味のある方は、是非お立ち寄りください。

自分の関心ごとと少し違う場所の仕事や活動にも、敢えてチャレンジしてみても? 学生時代に自分の殻をどれだけ破れるかで、社会人の広がりも変わると思います。

\*生活を維持するのに必要な一人当たりの地球の環境容量(陸地および水域の面積)



地域資源バンクNIU事務所前にて  
(三重県多気郡多気町丹生)

これまでに三重大学という学舎で育った卒業生は約64,000名、社会の様々な分野で活躍中です。

僕が「キラキラ卒業生」インタビューに来ました。お忙しい中、取材の時間を割いてくださりありがとうございます。



## ★「走ること」・自分を成長させてくれるもの

～輝くOBⅢ～ File. 16



株式会社 デンソー 大安製作所  
デンソー女子陸上長距離部

2009年度／全日本実業団女子駅伝 総合6位(4区 区間2位)  
福岡国際クロスカントリー6位→世界クロスカントリー日本代表  
2010年度／全日本実業団女子駅伝 総合9位(1区 区間9位)  
2011年度／全日本実業団女子駅伝 総合14位(1区 区間13位)

水口  
侑子  
Mizuguchi, Yuko

岐阜県生まれ。2009年三重大学教育学部生涯教育課程スポーツ健康科学コースを卒業。2009年株式会社デンソーに入社、女子陸上長距離部に所属。

### 走ることが大好き

小さい頃より走ることが大好きなんです。それは、今も変わっていませんよ。小学生の頃に、周りの友だちより速く走れる自分に気づき、地域の市民マラソン大会とかにもよく出場していました。もちろん、中学校の部活は、陸上部を選びました。練習を重ねると、どんどん速くなる。また練習し、速くなる。走るのがおもしろくて、おもしろくて…。

### もっと速く走る・考えて走る

高校の陸上部では、今までの練習とは違い、練習内容や方法も随分変わりました。大学は、もっと速く走るために三重大学を選びました。指導者の杉田先生からは、試合前になると必ず「やり過ぎたらダメだ!やり足りないくらいで丁度いいんだ!」と言われ、一時期、「自分で考えろ!」と、何も教えてもらえないこともありました。今、試合前の調整方法を自分で考え結果を出せるまでになったのは、きっとこの指導があったからだと思っています。

### 夢はフルマラソン

2009年春、プロとして走ることを決意し、デンソー女子陸上長距離部に入社入部。学生時代の一人練習と比べ、集団の中で練習することによって、苦しくても頑張れるようになりました。全日本実業団女子駅伝総合、世界クロスカントリー日本代表など、様々なレースに出場。練習しても記録が出ない時もあります。でも、もっと頑張らなきゃ!!と練習に力が入ります。どんなにハードなレースを走りきった後でも走るのが、嫌になったことないですよ。練習すれば結果はついて来ると信じてます。目指すは、フルマラソンです。

目標を持って努力すればいつか叶うときが来るはず、諦めないで頑張ってください。



2011年度全日本実業団女子駅伝完走後  
西京極運動公園にて(京都府京都市)

## ★米国を研究の地と決断

～輝くOBⅢ～ File. 17



MAYO CLINIC  
メイヨー医科大学・内科学教授  
メイヨークリニック・アレルギー科コンサルタント

紀太  
博仁  
Kita, Hirohito

三重県生まれ。1983年三重大学医学部卒業。1983年静岡こども病院。1985年三重国立病院。1987年三重大学医学部。1988年メイヨークリニック・ポスドク研究員。1991年三重大学医学部。1992年メイヨークリニック勤務。現在に至る。

### 研究を進める

今、世界中で免疫学の研究が急速に進み、様々なことが解明されています。アレルギー研究者としては、心躍らせながら現在3本の研究に取り組んでいます。よく、日本に戻れないのですか?と聞かれます。米国に渡って22年、メイヨークリニックには、私の思いや研究方法のトレーニングを積んだスタッフやテクニシャン(研究補助員)がいます。日本で一から研究を始めるのは、難しいですね…。津にいる両親には申し訳ないですが、もう暫く、米国暮らしです。

### 人との出会い

卒業時、臨床と結びついた研究に取り組みたくて小児科を選びました。1988年、2年先輩の藤沢先生よりメイヨークリニックを紹介されポスドクとして渡米。様々なスタッフや環境の整っている米国で研究漬けの3年を過ごしました。帰国後、臨床と研究の両立は難しいと感じ、当時、主任教授だった櫻井先生に相談。「3年やって目が出なければ、戻って来れば良い」との言葉をいただき、気楽な気持ちで再び渡米。この言葉がなければ、今の私はないでしょうね。

### 扉は、自分の手で開ける

自分から疑問点を発見すること。自分に必要なものは何か考える。自分から働きかける。人がレールを引いてくれるのを待っていてもダメですよ。周りの人に準備してもらおうのではなく、人に聞いて進めていくことが大切です。自分の夢の為には、可能性を信じて進む。まず、研究室に通い質問することから始まると思います。何でも、ぶつけてみて下さい。自分の可能性を可能に近づけるのは、自分自身ですからね。大丈夫ですよ。なんとかなります。物事を追求する熱意とモチベーションさえあれば、世界も夢じゃありません。

色々な事に興味を持って挑戦すること。



三重大学医学部附属病院前にて  
(三重県津市)

## ★社員と社長とのかけ橋



～輝くOBⅢ～ File. 18

神谷  
Kamiya, Makiko  
麻希子

大洋薬品工業株式会社

愛知県生まれ。2001年三重大学工学部分子素材工学科卒業。2003年三重大学大学院工学研究科分子素材工学専攻修了。2003年大洋薬品工業株式会社に就職。研究開発部、品質保証部、製品企画部などの社内異動を経て、現在に至る。

## 「やんばるの森」

エントランスが森って驚きますよね～!!

ここは「やんばるの森」と呼ばれ、奄美大島から沖縄にかけての自然が再現されています。実際に現地に出向き、葉の型を取り一枚一枚丁寧に作り上げ、完成させたと聞いています。社の顔として、来社されるお客様をお迎えしています。「ここまで…こだわる?」と思われるですね。でも、この追求心は、我が社の研究や製品づくりに取り組む姿勢にも通じていると思います。

## 研究者が秘書?

当社は、日本でも少しずつ浸透してきているジェネリック医薬品\*をお届けする、医療用医薬品メーカーです。研究職として入社し8年になりますが、この間、数度の辞令をいただきました。研究開発、品質保証、製品企画や営業企画などの部署を経て2011年の1月より社長秘書として社長室に配属されました。社長室には、私の他に広報、宣伝を担当しているメンバーがいます。そのメンバーも私同様、社内から異動してきました。

## 経験値の蓄積

秘書は「総務の専門家」と言われ、様々な業務があります。日々、講演資料や展示用パネルを作る上で研究者や営業員の立場に立って考えている事に気づきました。数回の異動により、それぞれの視点で製品や物事を捉える力が養われたようです。この経験を活かし、社長の傍にいるからできること…社内に社長の声を、また社内の声を社長に届ける。「何でも神谷に…」と頼んでいただける参謀のような秘書になることが目標です。

何でもチャレンジできる環境が大学にはあります。社会に出てはできないことを是非是非してください。会社に入ってしまうと長い休みは意外と取れないものです。楽しんで!

大洋薬品工業株式会社ビルエントランスにて  
(愛知県名古屋)

\* 先発薬の特許が切れた後に、同じ成分・同じ効き目・薬効でありながら、先発薬に比べて低価で販売

## ★生き物を「知る喜び」・「学ぶ嬉しさ」を楽しみながら伝える

～輝くOBⅢ～ File. 19



久志本  
Kushimoto, Teppei  
鉄平

市立しものせき水族館 海響館  
財団法人 下関海洋科学アカデミー  
展示部海獣展示課

三重県生まれ。2005年三重大学生物資源学部生物園生命科学科卒業。2005年市立しものせき水族館 海響館 就職。展示部魚類展示課配属。2008年海獣展示課へ異動。現在に至る。

## 生き物への好奇心

たもを片手に出歩き、何かと言うと川で遊ぶ小学生で、どんな魚がいるのか?どんな風に暮らしているのか?興味津々でしたね。高専卒業後、大学に編入したのは、あの頃の「知りたい」が膨らんでいたからじゃないでしょうか…大学時代は、半年間休学して南極の調査船に乗船したり、海や川での調査等楽しかったですね。その中で、漠然とですが、生き物の事を人に伝えられたら、いいなあ…とっていましたので、海響館(下関市立しものせき水族館)から採用通知が届いた時は、嬉しかったですよ～。

## アイドル「ペンギン」の真の姿

2010年3月に新施設「ペンギン村」(日本最大級のペンギン展示施設)がOPENしました。準備段階から携わりペンギンの飼育、展示物、イベント等の検討を何度も何度も行いました。どうすれば、「かわいい～」と叫んでしまう愛くるしい姿だけでなく、水中を高速で泳ぐ鳥としてのペンギンを知ってもらえるか?このスピードを感じてもらえるか…。また、子育ては、ペアのどちらかが共同で参画している様子等…「かわいい」から「凄い」と感じていただきたい。

## 驚きと感激のお手伝い

無事OPEN後、水深6mの水槽で自由に泳ぐペンギンの迫力に「うおー!凄～い」とお客様の歓声が響いた時の喜びは、忘れられませんが、海響館には、水中という環境に適応したペンギンやフグをはじめ多くの魚やイルカ、アザラシなど多くの生き物の姿を見学できます。また、体に触れて体感していただけるイベントもあります。ほんやりと生き物のことを人に伝えたいと思っていた大学時代とは違い、今は自分の好きなこと、自分の見せたいもの、お客様の求めるもの、水族館として伝えるべきことなどトータルで考えるようになったと思います。

大学時代に学んだことは社会に出て直接役に立つ場合は非常にまれだと思いますが、卒業研究や勉強や遊びの中で必死に考え、それに向け努力したことはきっと社会に出てから役立つと思います。



海響館(下関市立しものせき水族館)にて  
(山口県下関市)